学習内容報告書 フォーマット

学校名	石川県鳳珠郡能登町立松波中学校
授業者	森岡　亜由美

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

海藻から探る能登町の海（海に親しむ）

1-2. 学年

１年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

能登町では、２０１５年、町の創生総合戦略において、「小中学校で郷土愛を深め、ふるさとに誇りを持てる実践教育として海洋教育の充実を図る」ことが明記され、能登町教育委員会の主導で海洋教育の推進が図られている。２０１６年度から能登町の全小中学校での海洋教育が開始された。能登町各校は地域の自然や施設、人材を活用した体験活動の充実と、その前後の言語活動を大切にしながら各学校の独自性を生かした実践を行ってきた。

本校では「海藻から探る能登町の未来～海に進んで関わろうとする生徒の育成を目指して～」をテーマに各学年ごとに重点項目を設定し、目指すねらい・育成すべき生徒の姿を定め、総合的な学習の時間を柱とした単元を計画し実践した。１年間通して計画的に展開する教育課程の開発と実践を通して、海に進んで関わろうとする生徒の育成をめざすものである。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

能登はイカ釣り漁業や製塩などを通じ，海と深く関り生活してきた地域である。能登町の内浦海岸には全国屈指の藻場があり，多様な生態系を支えている。生徒は海を身近に感じているが重要な役割を担っている藻場には無関心に思われる。そこで海藻をテーマとした体験活動を通して能登町の海に愛着や誇りを持つ生徒の育成を目指す

1-6. 育みたい資質や能力、態度

郷土の暮らしを知ることや，全国的にも有名なイカ釣り漁、海洋深層水の製造など大切な海産物を海から得ていること，海の大切さを認識できる。また縄文館での見学をすることで，郷土の歴史に触れることもできる。また体験活動から自分たちの生活に関連させながら，海に親しみを持てると考えられる。

1-7.　単元の展開（全１５時間）

※目指す資質・能力

A：知識及び技能

B：思考力，判断力，表現力等　　①課題の設定　②情報の収集　③整理・分析　④まとめ・表現

C：学びに向かう力，人間性等　　①主体性　②自己理解　③協働　④他者理解　⑤社会参画

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	海洋学習オリエンテーション 今年度の海洋教育学習では、どんな内容を学習していくのか、また、なぜ海洋教育を行うのかなど生徒が具体的にイメージを持つことで見通しを持って活動できるようにする。	○教師の指導：授業の趣旨、今年度の説明と進行 ○主な評価 ・課題の設定（B①） ・主体性（C①） ○使用教材　ワークシート　パワーポイント
2・3	イカの解剖（のと海洋ふれあいセンター)） 能登町は全国的にも有数なイカ釣り漁が盛んな地域である。イカの解剖実験を通じて身近な水産資源に関して知るとともに、イカの生態系などについても解説をしてもらう。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・情報の収集（B②） ○外部連携：のと海洋ふれあいセンター ○使用教材：ワークシート　イカ
4・5	海洋深層水についての学習・施設見学 深層水をくみ上げるための取水ポンプや、塩分を抜くための装置、塩が製造されるところなどを見学。施設見学・講義を通して、海洋深層水が水産、農業、食品、飲料、化粧品、医薬品など多くの分野での利用可能性があり、水産資源の豊かさについて学ぶ。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・情報の収集（B②） ・整理・分析（B③） ○外部連携：あくあす能登 ○使用教材：ワークシート
6～13	『能登町の海洋をテーマにした学習発表資料の作成』 体験活動をまとめ，学習発表を行う。文化祭を発表の場とし、地域に海の魅力や豊かさを発信する。	○教師の指導：課題の提示、授業の進行、全体のまとめ ○主な評価 ・情報の収集（B②） ・協働、他者理解（C③、④） ○使用教材：パワーポイント
14・15	『地元の歴史（暮らし，食文化，イルカ漁など）を知る』 真脇遺跡からは通常は残りにくい木製品や，動物の骨，植物の種子などが非常に良好な状態で出土している。とくに前期末葉から中期初頭にかけての地層から出土した大量のイルカの骨は，縄文時代の人々の食生活を知る大きな手掛かりとなる。縄文時代の郷土での暮らしを講義・解説をしてもらう。	○教師の指導：授業の趣旨、目的の説明と進行 ○主な評価 ・地元の歴史について理解する。（A） ・課題の解決に向けて，適切に情報を収集する（B②） ○外部連携：真脇縄文館 ○使用教材　ワークシート

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　| １５ | 時間中の　| 2、３ | 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

・身近な海から命を頂いていることを理解し、学習し海の大切さや水産資源の尊さについて理解する。
・海を守り、海を利用し、海と人との共生を考えるきっかけとする。

2-3.　本時の展開

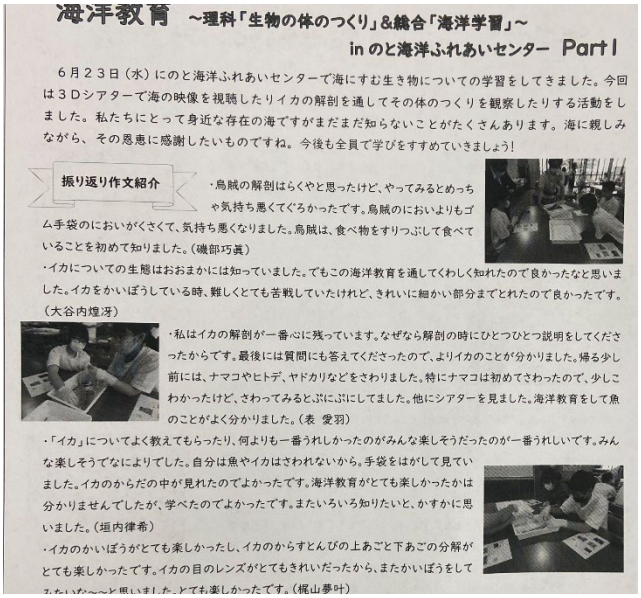
主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1.目的を理解する。 ・イカの生態系について知る。 ・海の恵みを実感することが目的である。 ・イカの解剖を行う	・端的に説明する。
イカの解剖をしてみよう	
2.イカの解剖の注意点や説明を聞き、実際に体験する。 ・イカの生態系や体の特徴について講義を聞きながら学ぶ。	・ゲストティーチャーに説明してもらう。 イカの解剖を行う際の注意点の説明を聞く。 イカの生態系や体の特徴について説明を聞く。 評価の視点①：イカの体の特徴について理解する。（A）
３．まとめ、振り返り（感想）	・体験活動から学んだ事を整理させる 評価の視点②：(ワークシートの記述から) 相手や目的に応じて，意図を明確にして表現する。(B④) ※イカの解剖・講義を終えた後は、のと海洋ふれあいセンターの施設見学を行う。

3.　今回の活動の自己評価

（生徒の感想（一部抜粋）より）

生徒の感想からは、海洋教育を通して魚や海の事が良くわかった。という趣旨の感想や、魚の環境を守るためにもゴミを海に捨てないようにしたいといった来年度の学習にもつながるような感想、イカだけでなく、他の魚の解剖もしてみたい。といった興味関心が高まったと感じる感想がみられた。

このように、海への愛着・関心が深まったこと、ねらいに迫った結果（能登町の海に愛着や親しみを持つ姿勢）があらわれたことも大きな成果と考えている。



海洋教育　～理科「生物の体のつくり」&総合「海洋学習」～

in のと海洋ふれあいセンター　Part I

６月２３日（水）にのと海洋ふれあいセンターで海にすむ生き物についての学習をしてきました。今回は３Ｄシアターで海の映像を視聴したりイカの解剖を通してその体のつくりを観察したりする活動をしました。私たちにとって身近な存在の海ですがまだまだ知らないことがたくさんあります。海に親しみながら、その恩恵に感謝したいものですね。今後も全員で学びをすすめていきましょう！

振り返り作文紹介

・烏賊の解剖はらくやと思ったけど、やってみるとめっちゃ気持ち悪くてぐろかったです。烏賊のにおいよりもゴム手袋のにおいがくさくて、気持ち悪くなりました。烏賊は、食べ物をすりつぶして食べていることを初めて知りました。（磯部巧眞）

・イカについての生態はおおまかには知っていました。でもこの海洋教育を通してくわしく知れたので良かったなと思いました。イカをかいぼうしている時、難しくとても苦戦していたけれど、きれいに細かい部分までとれたので良かったです。（大谷内煌冴）

・私はイカの解剖が一番心に残っています。なぜなら解剖の時にひとつひとつ説明をしてくださったからです。最後には質問にも答えてくださったので、よりイカのことが分かりました。帰る少し前には、ナマコやヒトデ、ヤドカリなどをさわりました。特にナマコは初めてさわったので、少しこわかったけど、さわってみるとぷにぷにしてました。他にシアターを見ました。海洋教育をして魚のことがよく分かりました。（表　愛羽）

・「イカ」についてよく教えてもらったり、何よりも一番うれしかったのがみんな楽しそうだったのが一番うれしいです。みんな楽しそうでなによりでした。自分は魚やイカはさわれないから。手袋をはがして見ていました。イカのからだの中が見れたのでよかったです。海洋教育がとても楽しかったかは分かりませんでしたが、学べたのでよかったです。またいろいろ知りたいと、かすかに思いました。（垣内律希）

・イカのかいぼうがとても楽しかったし、イカのからすとんびの上あごと下あごの分解がとても楽しかったです。イカの目のレンズがとてもきれいだったから、またかいぼうをしてみたいな～～と思いました。とても楽しかったです。（梶山夢叶）

4.　今後の課題

本校の今後の課題として２つ上げられる。

①海洋教育フォーラムなどに参加し教養を深めるなど、担当者を中心に学びを深め学校職員全体に還元するなど、さらなる研修が必要。

②小学校での学びを生かしたプランの作成や食物アレルギー等の関係で例年通りのプランが組めない場合など各学年の実状に応じたプランの作成を検討する必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・外部指導員との連携

・身に着けたい資質能力を明確にすること。

・単元のまとめにつながるようなプランの作成